創立１００周年
記念式典

記念講演「手話が開いた１００年の扉」

加藤　小夜里　様

那須　英彰　様

記念講演

2026.10.24(土)







那須氏は手話言語研究所の研究員として、手話言語の研究・普及、ろう文化の表現力の価値を伝える活動を行なっていること、加藤氏はＮＨＫ手話ニュースのキャスターであり、平塚ろう学校の卒業生として、また、かつて本校教員として教育に携わり、さらにデフリンピックでの通訳の実績を持っていることをご紹介した。

講演冒頭、本校の象徴的活動として和太鼓が挙げられ、中学部の太鼓発表の感動が共有された。

沿革の振り返りでは、創立「1925年」であることが確認され、名称変更が三回あったことを経て現在の「神奈川県立平塚ろう学校」に至ったことが示された。

教育史では、かつて口話教育が主で、手話は手真似として禁止されていた時代があった一方、現在は手話が認められていることが対比的に述べられた。学校の特色として、和太鼓に加え卓球・陸上などのスポーツも活発で、文武両道を実践していること、卒業生の活躍についても語られた。手話表現のセッションでは、手話の一人芝居を通じたクイズ形式の実演が行われ、観客とともに表現の解釈を楽しみつつ、動きの緩急による表現力の重要性が示された。登壇者と児童生徒が一体となり、見る人を引き付ける表現を体感的に学ぶ機会が提供された。また、登壇者の幼少期の体験、本校の池での思い出も語られ、ろう文化や手話表現の原体験が印象的に語られた。